



2022年9月15日

各報道機関 御中

企画総務部総務広報課長

2022年度 宮崎大学多言語多文化教育研究センター主催 第2回シンポジウム  
「自分を知り、他者を理解する-地域で産み育てる・ことばの学びを支援する-」の開催について

このたび、第2回目となるシンポジウム「自分を知り、他者を理解する-地域で産み育てる・ことばの学びを支援する-」を開催いたしますのでご案内いたします。

つきましては、貴社の「インフォメーションコーナー・お知らせコーナー」等に掲載していただくとともに、取材についてご検討いただきますようお願いいたします。

### 記

日 時：10月1日（土） 13:00～15:55

視聴方法：Zoomを利用したオンライン配信（宮崎大学木花キャンパス 附属図書館よりライブ配信）

対 象：一般（興味のある方ならどなたでも視聴できます）

申込方法：宮崎大学多言語多文化 HP 専用サイトから Web 申込（受講料無料）

その他：メディア関係者の方は、配信拠点となる宮崎大学附属図書館での視聴・取材が可能です。

#### スケジュール：

##### <第1部>

13:00～13:05 開会の辞 センター長 村上 啓介

13:05～13:10 第2回企画趣旨説明

13:10～13:30 日本語教育における「複合リテラシー」とは—「内的次元」に配慮した学修支援へ—  
小柴 裕子（多言語多文化教育研究センター）

13:35～13:55 台湾における産後ケアについての紹介—宮崎・日本の現状と将来を考える—  
Amy Hombu（多言語多文化教育研究センター）

14:00～14:30 宮崎市の母子を支える事業—妊娠期からの切れ目のない支援を行うために—  
西森 由貴（宮崎市子ども未来部親子保健課育児支援係・保健師）

##### <第2部>

14:45～15:45 パネルディスカッション・質疑応答

登壇者：西森 由貴・小柴 裕子・本部 エミ

ゲストコメンテーター：池畑 裕介・渡邊 優子

15:45～15:55 閉会の辞 副センター長 胡屋 武志

① 問い合わせ先

宮崎大学多言語多文化教育研究センター

E-mail: info\_lang@of.miyazaki-u.ac.jp

TEL: 0985-58-7133 (川北)

② 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL: 0985-58-7114 FAX: 0985-58-2886

2022年度

宮崎大学多言語多文化教育研究センター主催 第2回シンポジウム

# 自分を知り、 他者を理解する

—地域で産み育てる・ことばの学びを支援する—

本シンポジウムでは、「ことば」と「文化」を切り口に、タタセの教員たちがそれぞれの専門領域で取り組んでいる「自分を知り、他者を理解する」ことに関わる講演をお届けします。

第2回となる今回は、「地域で産み育てる・ことばの学びを支援する」と題し、

第1部で、言語教育における能力評価に関する講演、出産子育て・産後ケアに関する講演をお届けし、

第2部ではゲストコメンテーターも含め5名の登壇者とオンラインの聴衆の皆様とともに総合討論をお送りします。

## 多言語多文化教育研究センター (通称:タタセ)とは?

2013年に語学教育センターとして宮崎大学に設置された教育・研究組織です(2020年より現在の名称に)。世界各地の言語や文化に関心を持つ研究者によって構成され、大学内はもとより地域における教育・研究活動に携わることを目指しています。

参加  
無料

2022  
10.1 (土)

13:00~15:55 12:40開場

ZOOM 開催

「宮崎大学附属図書館」より配信いたします。

### 第1部 司会: 藤井久美子 (タタセ)

- 13:00 ~ 13:05 開会の辞  
センター長 村上 啓介
- 13:05 ~ 13:10 第2回企画趣旨説明
- 13:10 ~ 13:30 日本語教育における「複合リテラシー」とは  
—「内的次元」に配慮した学修支援へ— 小柴 裕子
- 13:35 ~ 13:55 台湾における産後ケアについての紹介  
—宮崎・日本の現状と将来を考える— Amy Hombu
- 14:00 ~ 14:30 宮崎市の母子を支える事業  
—妊娠期からの切れ目のない支援を行うために— 西森 由貴
- 14:30 ~ 14:45 <休 憩>

### 第2部 司会: 松永 稔也 (タタセ)

- 14:45 ~ 15:45 パネルディスカッション・質疑応答  
登壇者: 西森 由貴・小柴 裕子・Amy Hombu  
ゲストコメンテーター: 池畑 裕介・渡邊 優子
- 15:45 ~ 15:55 閉会の辞  
副センター長 胡屋 武志

お問い合わせ先

多言語多文化教育研究センター  
info\_lang@of.miyazaki-u.ac.jp

申し込み方法

下記のリンクよりお申し込みください。  
申し込みされた方には、後日ZOOM情報をお送りします。  
<https://www.of.miyazaki-u.ac.jp/~web-enq/tatase/enq.html>



# 自分を知り、他者を理解する

—地域で産み育てる・ことばの学びを支援する—

## 日本語教育における「複合リテラシー」とは —「内的次元」に配慮した学修支援へ—

小柴 裕子（タタセ：日本語教育担当）

本来「リテラシー」は、「読み書き能力」と定義されますが、現在においては「金融リテラシー」や「経済リテラシー」など、「情報を活用する能力」として広義にも解釈されています。一方で、そのような複合的に融合した能力について、教育現場であまり語られることはありません。CEFRの「複言語能力・複文化主義」から、さらに展開した「複合リテラシー」という概念に着目し、日本語教育の新たな要素として、どのように価値づけ、また引き出していけばいいか考えます。

## 台湾における産後ケアについての紹介 —宮崎・日本の現状と将来を考える—

Amy Hombu（タタセ：英語教育担当）

出産は女性にとって人生の一大イベントです。中華圏では古くから出産後「坐月子」の風習があります。坐月子は体が妊娠前の状態に戻ろうとしている出産後4週間程度の期間を指し、出産した女性は心身ともに不安定な状態になるため、「産後ケア」のサポートが必要になります。一昔前まで台湾では坐月子の期間中、家族が日常生活を全般的にサポートし、身の回りのお世話をしていました。例えば食事の面では出産で失われた血を麻油鶏（鶏肉を米酒で煮た料理）で補わせ、漢方薬など食べさせていました。現在は産後ケアセンターと呼ばれる専門宿泊サポート施設があり、家族に代わり同じ役割を果たしています。今回は台湾における産後ケアを紹介しながら、宮崎や日本の現状と将来について考えます。

## 宮崎市の母子を支える事業 —妊娠期からの切れ目のない支援を行うために—

西森 由貴（宮崎市子ども未来部親子保健課育児支援係・保健師）

宮崎市では、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行うため、従来の母子保健事業に加え、平成26年度から母子保健コーディネーターによる相談支援や助産師による産後ケア事業などを開始しました。また妊婦さんとの最初の出会いの場となる親子健康手帳（母子手帳）交付時に、保健師等の専門職が必ず面接を行うこととしております。令和元年度に産前産後サポート室（子育て世代包括支援センター）を市内2か所に設置し、現在、このサポート室2か所と4か所の保健センターで手帳を交付しております。妊産婦さんが安心して出産や子育てができるための宮崎市の取り組みについてご紹介いたします。

## ゲストコメンテーター



渡邊 優子  
（宮崎市子ども未来部  
親子保健課育児支援係・  
保健師）

池畑 裕介  
（中國文化大學）

長年にわたり台湾台北市の中國文化大學で成人向け日本語教育に携わりながら、東吳大学日本語文學系博士班において日本語教育の教材の一つとして絵本を用いた日本語教育・日本語学習の効果について研究を行っている。また、台湾における国際結婚家庭の家庭人（夫・父）としても日々の生活をおくっている。